

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	中山間地域自転車活用支援事業(22新規)	会計	一般会計	事業No.	490	施策順No.	72-008
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-4-10-15		
政策	7 自立・連携した地域づくり	課等名			観光課		
施策	72 自立に向けた住民組織力の向上	事業期間	開始	22	終了	22	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	下久堅地区、龍江地区						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	対象地区数				2			
	対象をどう変えるか	対象地区での事業実施に対する支援							
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	支援実施地区数				2	2		B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】		両地区のまちづくり委員会と打合せを行い、まちづくり委員会が自転車を活用した地域活性化の方法を探り、事業を行うことが出来た。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>中山間地域振興計画の中で、自転車を活用した地域づくりに取組む地域は次の2地区。 下久堅地域では、毎年5月に国際自転車ロードレースであるツアー・オブ・ジャパン南信州ステージを開催しており、飯田を全国に発信している。地区内の様々な関係者が連携し、レースの舞台となる周回コースを利用して、下久堅の自然、地形、観光等の見所などの地域資源を観ながら走るサイクリングコースを選定し、サイクリングマップを作成する計画がある。 龍江地域では、地域をあげて実業団サイクルロードレースへ参加、協力を行ってきた。天龍峡を含めたサイクリングコースを選定し、マップを作成するとともに、電動アシスト付き自転車を購入しレンタルすることにより、自転車で気軽に走って巡ってもらう地域とする計画がある。 上記2地区の取り組みに対し支援を行う。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 下久堅サイクリングマップの作成支援、観光利用 (1) 下久堅サイクリングマップ印刷 (2) 中山間地域自転車コース(TOJコース)案内看板設置 2 龍江水辺の楽校マウンテンバイクコースの一部整備 (1) 関係者打合せ (2) 調査、試走 (3) 環境整備	1 下久堅サイクリングマップ (1) マップ作成部数 (2) 看板設置箇所 2 龍江サイクリングコース (1) 打合せ回数 (2) 調査等回数 (3) 環境整備箇所数	1 (1) 2,000部 (2) 18箇所 2 (1) 5回 (2) 3回 (3) 1箇所
23年度実施計画	22年度単年度事業		

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	1,500	1,333		
	計(A)	1,500	1,333	0	
	正規職員所要時間		80		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		286		
	トータルコスト A+B		1,619		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・市議会や市政懇談会において、中山間地域における高齢化、若者流出による人口減少の現状及び地域自治の運営を危惧する質問や意見、飯田市に対する対策を求める声が多数寄せられている。 ・下久堅地域では、地域資源を活用した地域づくりの一つとして、ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージの周回コースとなっていることを活用した取り組みを始めている。 ・龍江地区でも、実業団サイクルロードレースを開催したことがあり、天龍峡を含めて自転車を活用した取り組みを計画している。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住民組織が地域で考え地域で活動し、役割を果たせる組織となる。	施策の成果指標又はムトス指標	自主的な地域づくりの参加人数(まちづくり委員会主催による活動)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中山間地域は、坂道が多く自転車の利用には適さない。これまでTOJと実業団のレースを行った、下久堅、龍江の両地区については、住民の自転車に対する関心が高いことから、「自転車」を切り口に、地域活性化のモデルづくりの方法を探った。下久堅地区は、国際自転車レースTOJのコース地区としての効果を利用して、市外にもアピールできる自転車レースの観戦と併せた地域内の観光スポットや名所を紹介する地域マップを作成して配布し、TOJコースの案内看板も設置した。龍江地区では、天竜川の堤外地である「龍江水辺の楽校」にオフロード用の自転車コースを整備するため、橋を架ける工事を行った。両事業とも地域住民が自らの地区をより良いものとなるように実施した事業であり、目的に即した事業となった。		
	後期に向けた課題	次年度なし		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	地域の住民が、自ら地域をより良くするために、参加し、考え、行動してもらった事業なので、まちづくり委員会の計画を支援するよう心がけた。		
	後期に向けた課題	次年度なし		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	少ない予算でより効果の高い事業となるように、まちづくり委員会と話し合いながら、地域の皆さんの知恵や知識を活用した。		
	後期に向けた課題	次年度なし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	中山間地域は、坂道が多く自転車の利用には適さないで、地域内からの自発的な活動を期待しても、自転車の普及促進が難しい。これまでTOJと実業団のレースを地域内で行った下久堅、龍江の両地区については、住民の自転車に対する関心が高いことから、自転車を使った地域活性化のモデルづくりを行うために、市が働きかけた。		
	後期に向けた課題	次年度なし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	両地区とも、まちづくり委員会が主体的に活動して事業を進めてきた。行政としては、まちづくり委員会が計画した事業がより効果の高い事業となるよう協力をしてきた。		
	後期に向けた課題	次年度なし		
全体を通じて	4年間の振り返り	下久堅地区では市外への地区のアピールに主眼を置いた事業を行い、龍江地区では地区内の自転車の利用状況(子どもたちがマウンテンバイクに乗っている機会が多いこと)を分析し、地域運営の基本方針である龍江21構想を踏まえて、地区民が自転車に親しむ場所としてコース整備を行った。両地区とも、これまで各自自転車レースによって高まった住民の自転車への関心を基礎として、自転車の普及が難しい中山間地域において、自転車を活用した地域づくりの在り方を検討・実施し、それぞれ特色のある事業となった。		
	後期に向けた課題	次年度なし。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input checked="" type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
--	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------